



## 第3回 「さわやか」総会 開かれる

五月二十八日(日)ウエルとばた(北九州市)六階会議室で、「さわやか」第三回総会が開催されました。梶原副理事長が、開会宣言を行い、続いて山田理事長より、「さわやか」は今年四月より「福祉有償運送」の許可事業所となり、法律改正後もこれまでどおり患者さんの送迎を行うことができるようになりました。

今年には特に、道路運送法及び道路交通法の改正や障害者自立支援法の施行により、「さわやか」の運営に影響を及ぼす問題が降りかかってきています。その問題を討議していただく大事な総会ですので、よろしくお願い致します、とあいさつがありました。

福腎協岩崎真一副会長が議長に選任されました。続いて、議事録署名人に加峯東樹理事と高原由美理事が選任されました。

議長より資格審査報告があ

り、総正会員数二十七名、出席者二十四名、うち書面表決者数八名、欠席者数三名で、この総会は成立する旨、報告がありました。

その後審議にはいりました。山田理事長より情勢報告(さわやか新聞百十二号掲載)と、定款の一部変更の提案と理由が説明され、承認されました。次に、寄友事務局員から、活動の現況報告がありました。(裏面に掲載)

次に、梶原副理事長より平成十七年度の収支決算報告があり、小田睦美監事より会計監査報告がありました。

その後、山田理事長より活動方針(案)が提案され承認されました。

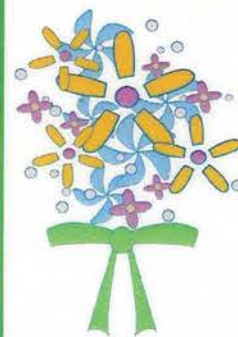
次に、高原理事より事業計画と十八年度予算(案)が提案され、承認されました。

今年には定款により役員改選の年となっております。現役員全員が再任に同意し、承認されました。その後、第一回理事会を開催し、理事の互選により新理事長に山田浩美氏、副理事長に梶原待子氏と、岡俊一氏が就任しました。

その後社員の中より、預託金についての質問がありましたが、個別に対応するとの議

長の発言があり、議事は継続審議になりました。

議長が解任の辞を述べ、梶原副理事長より閉会のあいさつがあり、終了しました。



### ご挨拶



かわい泌尿器科  
 クリニック  
 岡 俊一

さきの第三回総会におきまして副理事長に選任されました。「さわやか」に関わり始めて六年になりますが、たいしたお役にも立てずに過ごしてまいりました。ここにきて副理事長という大任をいただき強く責任を感じています。山田理事長の下、私にしか出来ないことが見つければ嬉しい限りです。

さて「さわやか新聞」でも通院送迎ボランティアの厳しい現状が毎号報告されています。大きな変革の時期の真っ只中ですが、今までグレイゾーンであった移送サービスが法的に確立されようとしています。

足元がしっかりして、強固な基礎ができた訳ですから、今まで「さわやか」が培ってきた経験を積み上げていけば、ますます利用者さんに必要とされる事業所になるものと信じます。もちろんそれにはこれまで以上にボランティアさんの力が不可欠なのはいうまでもありません。

ボランティアさんと事務局の結束力が「さわやか」の一番誇りとするとところだと思えます。それがこの難局を乗り越える一番の力にもなるものと思います。皆さんと一緒に頑張りましょう!



## 大手保険会社より回答

### 福祉有償運送車両の任意保険 自家用で認められる

福祉有償運送車両の任意保険に関して下記の保険会社より回答がありましたので、お知らせいたします。

- ① ㈱損害保険ジャパン 2006年4月17日以降適用
- ② 東京海上日動火災保険(株)  
2006年4月26日以降適用
- ③ あいおい損害保険(株) 2006年4月28日以降適用
- ④ 三井住友海上火災保険(株)  
2006年5月1日以降適用
- ⑤ 日本興亜損害保険(株) 2006年5月8日以降適用
- ⑥ 全労済(持ち込み車両のみ)  
2005年12月

(2006年6月13日現在)

用途等	自動車の種別	改定前	改定後
特種 (身体障害者輸送車・車いす移動車)	小型・普通乗合	特種 (キャンピング以外)	乗車定員11名以上: 自家用バス 乗車定員10名以下: 自家用乗用車
	軽	特種 (キャンピング以外)	自家用軽四輪乗用車
自家用 乗用	小型・普通	営業用乗用	自家用乗用車
	乗合	営業用バス	自家用バス

自賠責保険の適用車種につきましては、従来どおり「自家用」で変更ありません。



# 全腎協大会開催



全腎協結成35周年・法人設立10周年記念全国大会  
社団法人全腎協協議会 大阪腎臓病協会の協賛

全腎協結成三十五周年・法人設立十周年記念全国大会が五月二十一日大阪国際会議場にて開催されました。

北海道から沖縄まで千七百十八名の参加があり「さわやか」から山田理事長と梶原副理事長が参加しました。

大阪腎臓病患者協議会会長池永孝夫氏の歓迎の挨拶から始まりました。

主催者側から油井清治全腎協会長が、今回の大会は昭和四十六年に人工透析を必要とする腎臓病患者の医療と生活の向上を目指して、まさに患者の命の声と呼ぶにふさわしい声を集めて結成された全腎協が三十五周年を迎えました。社団法人の認可を受けてから十周年という記念すべき節目の年で、しかも、大阪での開催となり感

概深いものがあります、との挨拶がありました。

患者の訴えとして、山形県の鹿野さん、兵庫県の戸梶さん、大阪の高山さんの三人の発言がありました。

それぞれより良い医療と豊かな福祉社会の実現に向かいながら、私たちの生活が安心して生きて行ける社会制度になるようにがんばりましょう、という訴えでした。

記念講演として鳥羽水族館名誉館長の中村幸昭先生の「人生は明るく楽しく元氣よく」と題してユーモアにあふれるお話でした。人生はよくよくしないで辛いことはきつぱり忘れて、明るいことだけを胸に、明日に向かって前向きに歩むことが大切である

- 「ア」・・・あせるな
- 「オ」・・・怒るな
- 「イ」・・・威張るな
- 「ク」・・・くさるな
- 「マ」・・・負けるな

この「アオイクマ」を常に心に持ち、せっかくの一つの命なのだから、天寿を全うして、人のため世のために尽くすことこそ、人間の責任と使命である、と講演されました。

お昼からは「この国の医療を考える」と題して鼎談が行われました。全国保険医団体連合会会長の住江憲勇氏は現在国会で審議されている「医療制度改革」の具体的な内容と日本と世界の医療費比較について、語られました。

福岡県腎臓病患者連絡協議会事務局次長の中島由希子氏は患者と事務局専従者の目から見た「障害者自立支援法」と「診療報酬改定」の患者への影響について話しました。

油井清治全腎協会会長は全腎協の立場から医療制度改革に対する「全腎協の主張」についてそれぞれ話されました。

その後、今回は、癒しのプログラムをとということで特別講演が設定されていて河内家菊水丸師匠の「菊水丸の健康法」と題して楽しい講演でした。

今年も全国の方々との再会、交流、有意義な一日でした。来年は佐賀県で大会が開催されます。全国の皆様に九州の良さ、佐賀県の人情に触れて来てほしいと思います。また来年も元気で逢いましょう、を合言葉に帰福しました。

## 平成17年度「さわやか」活動現況報告



ボランティア数	98名
利用者数	36名
送迎回数	6933回

八幡・小倉事業所合算  
H18年3月31日現在

第5回 北部九州三県合同ボランティア研修交流会  
H17. 7. 24 《かばいよかばいボランティア》  
(佐賀県) ... 日常の送迎体験談 ...

第23回ボランティア研修交流会  
H17. 11. 20 [福岡市民防災センター]  
(地震体験・消火訓練)  
バスハイク 《福祉有償運送について》  
講師 山田 浩美

第24回ボランティア研修交流会  
H18. 2. 12 [八幡ロイヤルホテル]  
《生活習慣病について》  
講師 江頭 真紀子 医師

### 〓 お詫びと訂正 〓

「さわやか」新聞百十二号に誤りがありましたので、お詫びし、左記のように訂正させていただきます。

※ 千九百二十年に六月十日を「時の記念日」と制定。

※ 驟雨(しゅうう)・積乱雲や高層連など、高い雲から降るにわか雨。

※ 地 雨(じあめ)・低くたれ込めた層状の雲から降る長くじとじと降る雨。